

# きれいなきれいな町

小川未明

青空文庫



あるところに、かわいいそうな子<sup>こ</sup>どもがありました。かね子<sup>こ</sup>さん  
といって、うまれたときからよく目<sup>め</sup>が見<sup>み</sup>えなかつたので、お母<sup>かあ</sup>さ  
んは、たいそうふびんに思<sup>おも</sup>つていらつしやいました。

あちらにいい目<sup>め</sup>のおいしやさまがあるといえ、そこへつれて  
いき、またどこそこがいい目<sup>め</sup>のおいしやさまがあると聞<sup>き</sup>けば、そ  
こへつれていきました。

けれど、どのおいしやさまも、はつきりなおるとうけあつた人<sup>ひと</sup>  
はなかつたのです。

「お母<sup>かあ</sup>さん、わたしは目<sup>め</sup>が見<sup>み</sup>えなくても次郎<sup>じろう</sup>さんがあそびにきて  
くださるから、ちつともかなしくはありません。」と、かね子<sup>こ</sup>さ

んはいいました。

「ほんとうに次郎じろうさんは、やさしいいいお子こさんですね。あんなにしんせつなお子こさんはありませんよ。」と、お母かあさんもおよろこびになりました。

毎日まいにち、次郎じろうさんはあそびにきてくれました。

「かね子こさん、ぼく、おもしろいご本ほんをもつてきたのだよ。いま読んであげるからきいていてごらん。」

そういつて次郎じろうさんは、浦島うらしまたろう太郎のお話はなしを讀よんできかせました。

「かね子こさん、おもしろい？」

「おもしろいわ、太郎たろうは助たすけたかめをにがしてやったのでしよう

」。

「そうすると、かめがおれいにやってきたのだよ。どうかわたしの背中せなかにのつてください、龍宮りゆうぐうにおつれ申もうしますといったのさ。」と、次郎じろうさんはご本のほんきれいな絵えをながめていました。

「やあ、きれいだな。青あおや赤あかやでぬったご門もんがあつて、龍宮りゆうぐうつてこんなきれいなところかなあ。」と、次郎じろうさんは感心かんしんしていました。

けれど、かね子こさんには、その絵えがわかりませんでした。

「次郎じろうさん、どんなきれいな絵えがかいてあるの？」と、なみだぐんでききました。

次郎<sup>じろう</sup>さんは、かね子<sup>こ</sup>さんが目の見え<sup>め</sup>ないのに気が<sup>き</sup>つくつくと、

「ああ、悪<sup>わる</sup>かった。うらやましがらせるようなことをいわなければよかつた。」と、後悔<sup>こうかい</sup>を<sup>し</sup>ました。

そして、どうしたらかね子<sup>こ</sup>さんの目がよくなるだろうと思<sup>おも</sup>いました。

「ねえ、かね子<sup>こ</sup>さん、泣<sup>な</sup>くのはおよし。ぼく悪<sup>わる</sup>かった、かんにんしておくれ。」

「いいえ、次郎<sup>じろう</sup>さんが悪<sup>わる</sup>いのではない。わたしの目<sup>め</sup>はなおらないつて、お母<sup>かあ</sup>さんがおつしやつたので、かなしいのよ。」

「ぼく、どうかして見<sup>み</sup>えるようにしてあげるからね。」と、次郎<sup>じろう</sup>さんがいいました。

浦島太郎うらしまたろうは、かめを助たすけたために龍宮りゆうぐうへいって、おとひめさまにであつたのだから、ぼくもこれから殺せつ生しょうをしないことにしよう、次郎じろうさんは思おもいました。

「あつちからきたのは勇ゆうちゃんらしいな。」

次郎じろうさんは、往おう来らいに立たちどまつて見みていました。やはり勇ゆうちゃんでした。もちぼうを持もち、片手かたてにとんぼのかごをぶらさげていました。

「勇ゆうちゃん、とんぼが取とれた？」と、次郎じろうさんはききました。

「むぎわらとんぼが二匹ひきと、やんまを取とつたよ。」と、勇ゆうちゃんは、とくいになつて答こたえました。

「やんまを取ったの？」

次郎さんは、うらやましそうにかごの中をのぞくと、大きなやんまがいました。

「どこでやんまを取ったの？」

「あつちの梅の木にとまっていたのだよ。」

黒い目のくるくるした、黄色なすじのある、いいやんまでした。

次郎さんはふところから、浦島太郎のご本をだして、

「勇ちゃんは、こんな絵本を見たことがある？」と、ききました。

勇ちゃんは、きれいな本だと思いました。

「見たことがない。おもしろいかい？」

「これはおもしろいよ。見せてあげるから、勇ちゃん、とんぼを



みんなにがしておやりよ。」と、次郎さん（じろうさん）がいいました。勇（ゆう）ちやんはびつくりして、

「いやだ。ぼく、せつかく取（と）つたのだもの。」と、目（め）をみはりました。

次郎（じろう）さんは、どうしたらとんぼを助（たす）けることができるか（かんが）えしました。

「君（きみ）は、浦島（うらしまたろう）太郎（たろう）が龍（りゅう）宮（みや）へいつた話（はなし）を知（し）っている？」

「知（し）っているよ。だけど、あれはおとぎばなし（はなし）だろう。」

「うそのことは、本（ほん）に書（か）いてあるわけはないよ。これは浦島（うらしまたろう）太郎（たろう）の絵本（えほん）だよ。これと、とんぼととりかえつこ（こ）をしようよ。」

と、次郎（じろう）さんがたのみました。

「この大きなやんまは、おしいな。」勇ちゃんはやんまをながめ  
ました。

「勇ちゃん、いいだろう?」

「じゃ、とりかえっこしてあげよう。」

ふたり  
二人は、絵本ととんぼととりかえっこをしました。次郎さんは

とんぼを持つて、はらっぱの方へ走つていきました。

「さあ、みんなにげていけ。もうけつして子どもたちにつかまる  
なよ。」と、浦島太郎がかめをにがしたときのように、いいま  
した。

次郎さんは、かね子さんに、じゆず玉を取つてあげようと思つ  
て、原っぱへ三りん車にのつてやってくる、やはり三りん車に

のつた子が、一人であそんでいました。

「君は、どこの子かい？」と、次郎さんがききました。

「ぼくの町はこっちだよ。そうして、ぼくの名は、とんぼこぞうというのだよ。」と、その子はいいました。

「おもしろい名だね。」

「君とぼくと、三りん車の競争をしようよ。」と、とんぼこぞうがいいました。

「ぼくは、じゆず玉を取ろうと思つて、ここへきたのだよ。」と、次郎さんは答えました。

すると、とんぼこぞうは、

「じゆず玉は女の子の持つものだけ。」といつて、わらいました。

「そうさ。ぼくは、かね子さんという目のわるい、かわいそうな女おんなの子のために取りとにきたのだよ。」と、次郎じろうさんがいうと

「目めがわるいの？ そんなら、いいお薬くすりがあるよ。」と、とんぼこぞうがいました。

「ある？ どこに？」

「ぼくの町まちにいつしよにおいでよ。」と、とんぼこぞうさきが先になつて走りはしました。

次郎じろうさんはその町まちがどこかと思おもつて、つづいて走りはしました。赤あかい夕ゆうやけの空そらを見みながら、二人ふたりがいくと、きれいなきれいな町まちにきました。たくさん、ちようちんがついていて、にぎやかでした。「おまつりがあるの？」と、次郎じろうさんがききました。

「おはぐろとんぼのお姉ねえさんが、およめにいくのだよ。」と、とんぼこそうがいました。

「ここは、とんぼの町まちなの？」と、次郎じろうさんはおどろきました。

「とんぼの町まちだよ。めったに人のこられぬところさ。君きみはいい子だから、ぼくがつれてきたのだよ。」と、とんぼこそうがいました。

「どこに目薬めぐすりがあるの？」

「あすこ……。」「と、とんぼこそうが、ゆびさしました。

いってみると、むらさき色のびんがならんでいました。

「よくきくかい？」と、次郎じろうさんがきくと

「とんぼの目めをごらんよ。みんないい目めをしているだろう。」と、

とんぼこぞうが答こたえました。

「どうぞこの町まちを忘わすれませぬように。」と、次郎じろうさんは、いくたびも神かみさまにねがいました。

そうして、かえりには、しんせつなとんぼこぞうに、原はらつばま  
でおくつてもらいました。

# 青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 10」講談社

1977（昭和52）年8月10日第1刷

1983（昭和58）年1月19日第6刷

※表題は底本では、「きれいなきれいな町《まち》」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2015年5月24日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。



# きれいなきれいな町

小川未明

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>